



### ホスピタルアート



ホスピタルアートという言葉をご存じだろうか。病院という公共空間で、絵画などのアート作品を通じて「見る人」の心を穏やかに・豊かにする活動のことをいう。

北欧やイギリスなどの病院では定着している概念で、スウェーデンには通称「1%ルール」という法律があり、公共建築の全体予算の1%以上をアートに充てることが義務付けられていて、病院も対象となっている。

デザインを医療現場に取り入れる研究は海外で進んでおり、1984年にアメリカの「サイエンス」に、「窓のある病室に入院している患者は、窓のない病室の患者に比べて、より痛みが少ない薬物治療で済み、回復も早い」という論文が発表されたのが発端だ。

日本でも、いくつかの病院でこの活動が導入されており、アートディレクターや美術大学、その地域の芸術家と協力するなど、本格的なものもある。

私がこの活動に興味を持ったのは、2020年11月頃のもうすぐクリスマスという頃、当院でも、かつてはツリーや雪だるまが登場していたことを知ったのが始まりだ。

当初はクリスマス飾りをしたいというただただ自分本位な理由であったため、あまり目立たないように、透析室の一面の壁のみに装飾をさせていただいた。

否定的な意見が一つでもあれば、すぐに撤去しようと考えていたが、むしろ評判は上々で、患者さんから次を待ち望む声もあった。

そのため、以降2~3ヶ月毎に壁の装飾を変更し、この12月で1年となる。装飾を続けていくうちに上記のような効果が少しはあるのではという淡い期待や、このコロナ禍に少しでも季節感を病院内で感じてもらえればという思いも生まれ始めた。

プロの方が作製する芸術とはほど遠いが、楽しみにしてくださる方がいる限り、続けていけたらと思う。



腎臓内科医師 卜部 麻子



**ポインセチア**  
クリスマスが近づくとあちらこちらに飾られるのが赤いポインセチアです。日本では鉢に植えられているものが多く、3mほどに生長する常緑性の低木です。葉は染料・樹液は解熱剤として生活に利用する植物でしたが、17世紀に渡来したフランシスコ修道会の僧たちは、冬に赤くなるポインセチアを見て、葉の赤はキリストの血の色、緑は永遠の象徴、樹液の白は純血を表していると考えました。さらにポインセチアの葉の形が聖地ベツレヘムの星を連想させる事からキリスト誕生祭などに飾られるようになり、元々、原住のアステカ帝国では「ケトラシヨチトル」と呼ばれていました。19世紀に植物学者でもありアメリカ初代メキシコ公使ポインセツトはポインセチアが解熱剤として利用されていることを知ると、苗をアメリカへ持ち帰り品種改良を行います。2008年にその功績が讃えられ、発見者である氏の名前にちなみ「ポインセチア」と名付けられました。その後ポインセチアは、アメリカからヨーロッパに伝わります。ヨーロッパではクリスマスに「赤いものを飾る習慣があり、花の少ない冬の時期に、真っ赤に染まるポインセチアは大人気となり世界中に広まってきました。日本にも明治時代に持ち込まれ、大酒飲みで顔が赤い伝説の動物「狸々(シヨウジョウ)」に似ていることから狸々木(シヨウジョウボク)という和名が付けられています。コロナ禍の今年も、自宅でポインセチアを飾り静かにクリスマスを楽しめませんか。



### 診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時  
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診  
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

月曜日	午前：青山	午後：大村	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：大村	午後：宮里	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：宮里	午後：卜部・原		午後：竹中(脳神経内科)	
		(腎臓内科)	土曜日	午前：内科(交代制)	

### 季節の風景



イルミネーション